

# 東中 TM 通信

東中学校は、令和8年度から、大阪府のスクールエンパワーメント推進事業『確かな学びをはぐくむ学校づくり推進校』（市町村が主体となり、それぞれの課題に取り組み、その成果を域内に普及す・発信する旗艦校）に指定されており、今年が初年度となります。本校および河内長野市全体の学校において、学習面の課題は『自分の考えを表現する力・自分の考えを言語化する力』と『文章を使って説明する力』であると全国学力・学習状況調査や生徒アンケートの結果から読み取ることができます。本年度は、『ぐるぐる回せ！学習の輪』という手法を意識した授業をベースに、生徒どうしの意見交換、発表、まとめの場面を通じて自分の意見や考えを発表することができる生徒の育成を目指していきたいと思います。チーム東中として、保護者の皆様のご協力も得ながら、教育活動にいそしんでいく所存です。1年間よろしくお祈りします。

## 『TM（確かな学び）』とは？

「確かな学力」とは知識・技能の習得に加え、それらを活用して主体的に課題を解決する力、学ぶ意欲を含めた「生きる力」の知的側面を指します。

### 文部科学省が定義する「確かな力」

- 基礎的・基本的な知識や技能の習得  
(学習指導要領に基づいた確実な理解)
  - ・基礎的な読み書き計算だけでなく、その知識が「なぜそうなるのか」という背景まで理解している状態です。
  - ・バラバラの知識が自分の中で関連付けられ、整理されていることが大切です。
- 思考力・判断力・表現力に基づいた確実な理解  
(習得した知識を基に、自分で課題を見つけ主体的に解決する力)
  - ・習得した知識を使い、課題に対して「どう解決すべきか」を論理的に考え、判断する力です。
  - ・自分の考えを他者にわかりやすく伝えたり、議論を通じて考えを深めたりする力も含まれます。
- 学ぶ意欲【主体的に学習に取り組む態度】  
(自ら学び、よりよく問題を解決しようとする姿勢)
  - ・「もっと知りたい」という好奇心や、粘り強く取り組む態度です。
  - ・学んだことを「社会を良くするためにどう使うか」という倫理観や自己調整能力も重視されます。

一言で言えば、「確かな学び」とは、知っているレベルを超えて、使える・創り出すレベルへと自分を高めていくプロセスのことです。

# 今年度の校内研究・研修テーマ

## 『自ら工夫して問題を解決しようとする生徒の育成』

(テーマ設定の理由)

学調・学校教育アンケートの結果から、「自分の考えを表現する力」「文章を使って説明する問題について答える力」が全体的に低い傾向にある。この2つの力は河内長野市全体の課題でもある。そこで、今年度は、『ぐるぐる回せ！学習の輪』を意識した授業をベースに、対話を通じて自分の考えをまとめ、それぞれの課題に対して自己解決できる生徒の育成を学校全体で取り組んでいきたいと考えています。

『ぐるぐる回せ！学習の輪』とは、

- ⇒ 授業に、個人の活動・協同の活動・表現の共有の活動を取り入れ、授業の最後に個人の活動にもどす。まずは、自分で考えさせる。次に、小グループ活動で答えのすり合わせを行う。単なる共有の場にしない。なぜ？どうやって？その答えになったのか？深い学びの場となるように水を向けていく。最後に、他者に話しを聴き、他者と関わる中で自分の考えを吟味し、自分なりの考えを作りあげる。  
最終的に個人の活動にもどす。毎回取り入れることを意識する。



## 東中スタンダードの実現

- ① 授業規律の確立（授業を大切に作る習慣をつける）
- ② 心理的安心感がある授業環境
  - ・「わからない。」と言える環境づくり・多様性を認め合える環境づくり
  - ・失敗しても大丈夫な環境づくり・困ったら助けてもらえる環境づくり
- ③ 授業改善による学力向上
  - ・学習のめあて、振り返りを取り入れる。
  - ・生徒が考えを深める発問やワークシート（記述・シンキングツール）を取り入れる。
  - ・教師が一方的にしゃべる授業にならないようにする。（教え込む授業から考えさせる授業へ）
  - ・前時の復習や振り返り練習問題などによる反復学習
- ④ 「つなぐ」と「もどす」を意識する。
  - ・生徒の考えをつなぐ。 ・生徒の考えとテキストをつなぐ。
  - ・今日学んだことと前に学んだことつなぐ。 ・教室で学んだことと社会で学んだことをつなぐ。
  - ・難しくなったときに課題にもどす。 ・行き詰ったらグループにもどす。
  - ・グループで話し合ったことを全体にもどす。

具体的には、「つなぐ」言葉がけと「もどす」言葉がけを意識する。

今後も、適宜更新して参ります。東中学校の取り組みに、ご理解・ご協力のほど何卒よろしくお願い致します。